

さくら湖管理ニュース

No.10
3月
2002年
発行
国土交通省 東北地方整備局
三春ダム管理所

★ リフレッシュ放流で河川環境に大きな成果 ★

三春ダムでは、下流河川環境改善を目的とする『リフレッシュ放流』を、6月15日から10月5日までの約4ヶ月間、週に1回(0.8m³~20m³/秒)程度実施しました。

リフレッシュ放流は

- ①石等に付着した古い(枯死した)付着藻類の洗浄、新しい藻類の成長増進
- ②よどみによる臭気の解消
- ③底生動物、魚類の良好な生息環境の維持を目的としています。



←20m³放流の様子

古い付着藻類の剥離状況を把握するため、近赤外線写真を利用して検証してみました。(右の写真) ダム下流の西方橋付近では、リフレッシュ放流後に付着藻類が減少している事が伺えます。

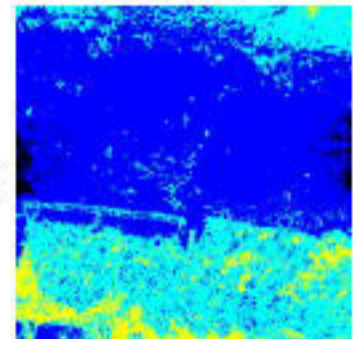
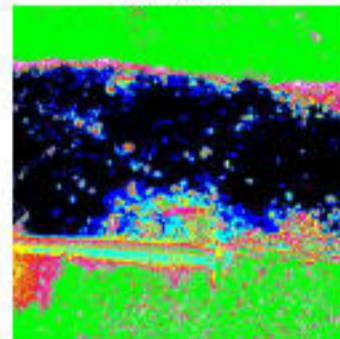
西方橋付近の川の様子



近赤外線写真

放流前

放流後



凡例・藻類の生息状況



その後には、新しい藻類の生長が確認されています。また阿武隈川漁協の報告によると、ウグイ等の数が多くなり、成長も早かったとの報告を得ました。

管理所危機管理体制を確立



毎日の点検の様子→



管理所入口に立つガードマン→



ダム爆破予告の対応

三春ダムを含む県内3ヶ所の湖に爆弾を仕掛けた旨の手紙が、会津若松市長宛に届いたと連絡が入りました。三春ダムでは警察や関係機関(県や町)と協力し、爆破予告期間の2月20日から3月5日まで、管理施設やダム周辺の監視・点検を強化する危機管理体制をとりました。また、一般者が巻き込まれないよう、堤体付近への立ち入りの規制を行いました。そのため、ダムを見学に来られた皆様には多大なるご迷惑をお掛けいたしました。

あなたはどっちを買いますか？

2月15日（金）、第4回大滝根川流域勉強会が開催されました。“環境にやさしい農業”をテーマに、県中農林事務所田村農業普及所の伊東かおるさんから講話をいただきました。



←伊東かおるさんの講話

これからの農業は、農産物から土へ。土壌管理と改良、農産物の履歴書がやさしい農業のカギ。

フリー討論の様子→

遺伝子組み替え食品や、輸入・加工食品について、意見交換されました。



勉強会では、毎回講師を迎えていますので、皆さんが日頃感じている悩みや疑問を解決するいいキッカケになると思います。

次回は3月15日（金）13時30分より自然観察ステーションで開催されます。たくさんの皆さんの参加をお待ちしております。

流域自治体が見守る三春ダムに

三春ダム維持管理協議会総会開かる

平成13年度総会が2月7日さくら湖自然観察ステーションで開催されました。総会の後、この会の顧問である伊藤三春ダム管理所長が「三春ダムの現状と課題」について講演をし、三春ダムへの理解と支援の要請を行いました。



三春ダム維持管理協議会とは？

三春ダム周辺流域自治体（郡山市・二本松市・本宮町・白沢村・三春町・船引町）の首長が、三春ダムの適正な維持管理及び水質の保全をはかる目的として、平成10年度に組織された。目的達成のため研究、情報収集・交換、三春ダムに関する要望、東北直轄ダム事業促進連絡協議会の支援などを行う。さくら湖自然教室や、さくら湖自然フォーラムの主催、地域の学習支援や適切なダム管理のあり方の提案など、幅広い活動を行っている。

地震によるダム総点検

2月12日（火）

2月12日（火）22時44分に強い揺れ（郡山で震度4）を感じた職員は、急遽管理所へ集合し、地震による注意体制をとりました。

即時、点検作業を開始し堤体内部へと向かいました。翌日は、貯水池の法面の崩壊がないか確認しました。

第1に漏水量を確認→



↑地震計の表示

今回の点検により、いずれの箇所にも異常は認められませんでしたので、体制を解除しました。

貯水池法面点検→

今後もいかなる状況にも万全の体制で、ダムの安全に心がけたいと思います。



エナガの『エ』は何が長い？！

自然観察ステーション

【冬の野鳥観察会】 2/10（日）

繁殖中のカワウは、顔が白くて新種の鳥かと思われました。→

（さくらの公園）



←ヤマセミ発見！

（蛇石橋から上流）

当日は強い風が吹く中、日本野鳥の会の方などベテランの方々と、初めて参加した超初心者の私を含む9人で、20種類の野鳥を観察する事が出来ました。

次の日、個人的に野鳥の観察を試みたのですが、声で鳥の種類を判断するどころか、姿を探すのさえ困難でした。また別の日に、郡山駅前で見上げると、V字型で15羽位で飛ぶ首の長い大きな鳥を見ました。

・・・あれは、きっと白鳥だったに違いない！

鳥を見つけたら双眼鏡で覗いてみよう！

暖かくなり春の訪れも間近に感じる頃となりましたが、さくら湖の虫たちについて

『福島虫の会』の小林さんにお話を伺いました。

『福島虫の会』はどのような活動をしているのですか？

県内・外の虫好きが集まった同好会で、小学校3年生から高齢者の方まで、多種多様な人達で構成されています。20年もの歴史があり、現在160名程度の会員がいます。情報の交換や採集会の他に、年に1回研究の結果をまとめた機関紙も発行しています。



←チョウの種類を識別するには、翅の脈をみてください。

さくら湖周辺にはどんな虫がいるのでしょうか？

カブトムシ、ミヤマクワガタ、オオムラサキ、ショウジョウトンボ・・・一つずつ挙げていけばキリがない位、さくら湖周辺には、たくさんの昆虫が住んでいますね。ちなみに私はチョウが専門です。

蛹の時に食べたエサの種類によって、体の大きさが変わってきます。



数いる昆虫の中から、どうしてチョウなのか？

模様が実に様々で、美しい！という事が魅力の一つですね。例えば同じ「ヒョウモンチョウ」でも、「ウラギンヒョウモン」の様に翅の表面だけ見たのでは、どの種なのか区別出来ないというのもチョウの魅力の一つだと思います。



↑小学校で、昆虫の標本や鳥の巣箱作りなどを紹介！

小林さんにとって『昆虫』とはなんですか？

昆虫は、他の動物に比べ体が小さく、あまり身近な生物に感じていない人も多いかもしれませんが、でもよく目をこらして見てみると、不思議な事や説明されていない事もたくさんあって、解らない事だらけです。水をさらって魚や虫を採取したり、鳥を観察する事はとても楽しいものです。自然界においては、私達人間のほうが『新入り』という事も忘れずに、生物との共存を目指したいですね。



オオスズメバチ



自然に飛び出して虫に接して新しい感動を見つけよう！



名前 小林 潤一郎 出身 新潟県
一言 虫を見つけたら、観察して触ってみてください。でもスズメバチやハチの巣を見つけたら、絶対に手で触らないこと！

←ハチの先生でもある応用地質師の松村さん（左）と、小林さん（右）。自然観察ステーションにて。



↑本体は黒御影石で、台座にはダム湖底から取れた石が使われています。

湖底に沈むふるさとをしのぶ・・・

三春ダム建設にあたり、約160世帯約700名に及ぶ方々が移転されました。湖底に沈む、幾世代にもわたり生活を育んできた故郷への思いを込めて建てられたのが、この記念碑です。

石には、その思いや移転にいたるまでの経緯、移転された方々のお名前が刻まれています。

ダム堤体やさくら湖を望むことができる左岸公園に配置されています。



さくら湖の畔へここにありませう ←管理舎と資料館

郡山東部地区総合農地開発事業完工

郡山東部の農地整備・用水安定を目指して



←新しい農地が生まれ、新たな作物を栽培する農家も増えました。

(写真左は白加賀梅、下は阿久津ねぎ)

この事業は、さくら湖の水を利用し、阿武隈川右岸約2,000haの農地を開発整備するものです。



受益農家は2,811戸で、多彩で意欲溢れる営農活動が期待されます。

↑三春ダムにある郡山東部取水塔
三春ダムから送水している



金沢調整池。→

4月の供用を目指し、現在試験湛水中です。

資料館からのお知らせ

資料館1階では、3/15(金)まで『流域紹介～船引展』を開催しています。

特産物の絵付けひょうたん→



2階では、『児童図画コンクール』の受賞作品を展示しています。

さくらの公園では梅も咲いて、いよいよ春です。

編集後記

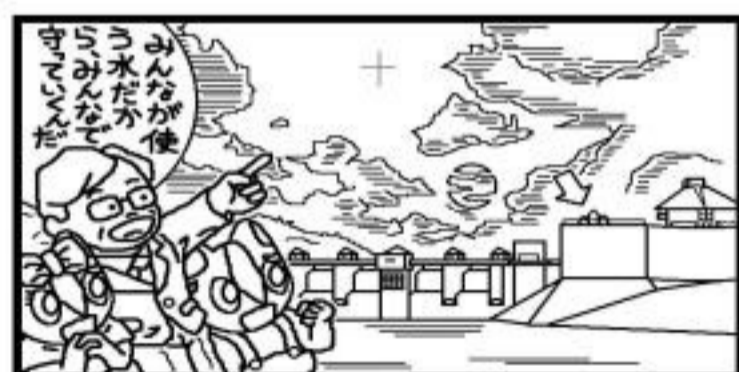
本誌も通巻10号。

姉妹誌の「さくら湖だより」も年内中に60号を迎え、資料館も入場者50万人に達するという記念すべき年になりそうです。あと2号で、1周年を迎える管理ニュースも、これからも多くの方々に末永く愛読されるよう努力していきます。また、今回初めて読んだ方でも、ホームページでバックナンバーが載せてありますのでそちらもご覧になって下さい。

皆様のご意見、ご感想をお寄せ下さい。(大井)



地域づくりだよ！全員集合！



編集・発行 国土交通省

東北地方整備局
三春ダム管理所

〒963-7722

福島県田村郡三春町大字西方字中ノ内
403-4

TEL 0247-62-3145 FAX 0247-62-3170

ホームページ

<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu>